

大規模災害時における地域連携を踏まえた更なる災害医療提供体制強化に関する研究

研究分担者 西 大輔（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 教授）

研究要旨

令和5年度は、①研修時のメンタルヘルスのチェックの実施方法を検討する、②「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装するための準備を行う、③Disaster Medical Assistance Team (DMAT) およびDisaster Psychiatric Assistance Team (DPAT) 隊員のメンタルヘルスの関連要因を検討することを目的とした。①に関しては、令和4年度の結果を踏まえて、研修時調査を実施せずに東京大学大学院医学系研究科精神保健学/看護学分野のホームページに医療救援者が自身のメンタルヘルスをチェックすることのできるページを設けて隊員研修の際にそれを周知し、多くの方に閲覧いただくことができた。②に関しては、ホームページや日本災害医学会を通じた発表・周知等によって2つの推奨事項を広く周知できた。③に関しては、令和6年能登半島地震のDMATの活動終了後に調査を実施できたことで貴重な回答データを得られた。以上より、令和5年度は当初の計画以上に研究を進めることができたと考えられる。

研究協力者：

河島 讓（国立病院機構本部DMAT事務局）
池田 美樹（桜美林大学リベラルアーツ学群 准教授）
宮本 有紀（東京大学大学院医学系研究科精神看護学分野 准教授）
浅岡 紘季（東京大学大学院医学系研究科精神保健学分野 助教）

A. 研究目的

当分担班では、3年間の目的として、新規・更新研修時にメンタルヘルスのチェックを組み込む、Disaster Medical Assistance Team (DMAT：災害派遣医療チーム)・Disaster Psychiatric Assistance Team (DPAT：災害派遣精神医療チーム)隊員のメンタルヘルスの関連要因をさらに検討する、「医療救援者の個人へのメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を完成させて普及することを目的としている。

令和5年度は、下記①-③を目的とした。

- ①研修時のメンタルヘルスのチェックの実施方法を検討する。
- ②「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事

項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装するための準備を行う。

③DMATおよびDPAT隊員のメンタルヘルスの関連要因を検討する。

B. 研究方法

①研修時のメンタルヘルスのチェックの実施方法を検討する。

研究代表者、研究分担者、DMAT事務局の先生方に昨年度の研修時調査の回答率を報告し、今年度の調査の実施や調査方法について議論を行った。

②「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装するための準備を行う。

昨年度実施したDMAT・DPAT隊員がご所属の病院長や救命救急センターの先生方へのインタビューより得られた今後の活用方法への示唆を参考に、研究代表者、研究分担者、DMAT事務局の先生方、DMATの隊員研修の担当者、現場にて活躍する医療救援者等と議論を行い、2つの推奨事項の実装や普及の方法を検討した。今年度の実装可能な

方法については、実施を試みた。

③DMATおよびDPAT隊員のメンタルヘルスの関連要因を検討する。

DMAT全隊員を対象に、令和6年能登半島地震のDMATとしての概ねの活動が終了した後の2024年3月8日～3月31日に、Emergency Medical Information System (EMIS)を用いての第7回目のオンライン調査を実施した。

(倫理面への配慮)

本研究は、東京大学大学院医学系研究科・医学部倫理委員会(2019164NI)、および国立病院機構災害医療センター倫理委員会(2019-19)より承認を得て実施された。研究参加への同意(インフォームドコンセント)は、オンラインにて研究の説明文書を明示し、同意書にご回答をいただく方法にて、同意を得た。

C. 研究結果

①研修時のメンタルヘルスのチェックの実施方法を検討する。

議論の結果、昨年度の研修時調査の回答率(6.2%)等を踏まえて今年度は研修時の調査は実施せず、令和2年より実施しているEMISを用いての調査を継続する方針とした。加えて、東京大学大学院医学系研究科精神保健学/看護学分野のホームページに「DMAT/DPAT隊員のメンタルヘルスチェックシステムに関する研究」のホームページを作成し、そのコンテンツとしてDMAT隊員やDPAT隊員等の医療救援者の方が自身のメンタルヘルスをチェックすることのできるページを設けた。ページ内の質問紙の回答によるメンタルヘルスの状態に応じたフィードバック文面が表示されるようにした。ホームページのアクセスログより、2024年1月の1ヶ月の期間に約10,000件のアクセスがあった。

②「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装するための準備を行う。

議論の結果、2つの推奨事項を普及することは重要と意見を得るとともに、多くの普及と実装方法の意見を得ることができた。今年度は様々な場

において2つの推奨事項を普及することができた。第一に、DMATの隊員研修のメンタルヘルスの講義に2つの推奨事項等の内容を追加いただくことができた。第二に、第29回日本災害医学会総会・学術集会の「救援者・支援者のメンタルヘルサポート」のシンポジウムにおいて、シンポジストとして2つの推奨事項等の内容を発表した。第三に、令和6年能登半島地震のDMAT隊員の活動中にEMISを用いて2つの推奨事項を発信した。第四に、日本災害医学会のホームページにて2つの推奨事項を公開いただいた。第五に、東京大学大学院医学系研究科精神保健学/看護学分野のホームページにおいても2つの推奨事項を公開した。

③DMATおよびDPAT隊員のメンタルヘルスの関連要因を検討する。

13,892名に研究参加依頼を配信し、1,798名より回答が得られ、回答率は12.9%であった。メンタルヘルスの指標の1つであるK6が13点以上の方は57名であった。加えて、これまでの調査結果について2本の国際学術誌の掲載と、2回の学会発表を行った。

D. 考察

①研修時のメンタルヘルスのチェックの実施方法を検討する。

研修時調査は各研修の準備等の調査のための準備に大きな労力が必要であるのに対して回答率が低く、研修時調査によるメンタルヘルスのチェックの継続は困難であると考えられた。一方で、東京大学大学院医学系研究科精神保健学/看護学分野のホームページに作成したメンタルヘルスのチェックすることのできるページには多くのアクセスがあった。以上のことから、研修時調査によるメンタルヘルスのチェックの代わりとして、EMISによる調査と東京大学大学院医学系研究科精神保健学/看護学分野のホームページのメンタルヘルスのチェックのためのページを活用する方法は有効である可能性が考えられた。また、隊員研修の際にこのページを周知することは有用な可能性があり、令和6年度の検討課題とする予定である。

②「修正した医療救援者のメンタルヘルス推奨事項」および「所属組織として医療救援者のメンタ

ルヘルスに重要と考えられる推奨事項」を実装するための準備を行う。

今年度は当初の計画以上に、2つの推奨事項を周知することができた。③で実施した2024年3月の調査で2つの推奨事項の周知状況を調べており、令和6年度はその結果を報告する予定である。

③DMATおよびDPAT隊員のメンタルヘルスの関連要因を検討する。

令和6年能登半島地震のDMATとしての概ねの活動が終了した後の第7回目の調査の回答率は、これまでで最も高い回答率であった。K6が13点以上の方の割合も、これまでの調査において最も高い結果であった。今後は、調査より得られたデータを解析し、研究成果を学会や論文等にて公表していく。

E. 結論

3年計画の2年目の令和5年度は、1年目の結果を踏まえて研修時調査を実施せずに他の方法を検討したが、3年間の目的を達成するために重要な研究成果を上げることができた。特に、2つの推奨事項を現場の医療救援者の方々に広く普及をできたこと、令和6年能登半島地震のDMATの活動終了後に調査を実施できたことで貴重な回答データを得られた点は当分担研究の重要な研究成果である。以上より、令和5年度は当初の計画以上に研究を進めることができたと考えられる。

F. 健康危険情報

特記事項なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Asaoka H, Sasaki N, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D. Reliability and validity of the Japanese version of the Professional Fulfillment Index among healthcare professionals: A validation study. J Occup Health. 2023 Jan-Dec;65(1):e12422.
2. Asaoka H, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D. Association Between Attitudes Toward Trauma Informed Care and Psychological First-Aid Training

Experience Among Health Care Professionals in Japan. Disaster Med Public Health Prep. 2023 Aug 3;17:e443.

2. 学会発表

1. 西 大輔, 浅岡 紘季. 救援者 (DMAT、DPAT 隊員) のメンタルヘルスサポートシステム構築への提言. 第29回日本災害医学会総会・学術集会, 2024年.
2. 浅岡 紘季, 小井土 雄一, 河寫 讓, 池田 美樹, 宮本 有紀, 西 大輔. COVID-19パンデミック時の医療従事者におけるCOVID-19感染者の対応の決断の経験とPTSD症状の関連. 第30回日本行動医学会学術総会, 2023年.

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

特記事項なし。

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Asaoka H, Sasaki N, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D.	Reliability and validity of the Japanese version of the Professional Fulfillment Index among healthcare professionals: A validation study.	J Occup Health.	65(1)	e12422	2023
Asaoka H, Koido Y, Kawashima Y, Ikeda M, Miyamoto Y, Nishi D.	Association Between Attitudes Toward Trauma Informed Care and Psychological First-Aid Training Experience Among Health Care Professionals in Japan.	Disaster Medicine and Public Health Prep.	17	e443	2023